

5 黒漆光明真言厨子 1基（工芸品）

こくしつこうみょうしんごんずし

つけたり 附 紙本墨書相承次第 1通

所有者 奈良市西大寺芝町一丁目1番5号 西大寺

木造 黒漆塗 総高61.0cm 鎌倉後期～南北朝時代

西大寺の光明真言会こうみょうしんごんえにおいて本堂本尊の前に安置される厨子である。光明真言会は文永元年（1264）に叡尊により始められ、西大寺の法会のなかで最も重要なものの一つとして現在も存続している。本品は墨書された光明真言を納めるためにつくられたもので、形は額装された光明真言に合うように扁平なつくりを示す。

軽快な姿形や簡潔な構成は鎌倉時代の様式に倣うが、各部の均衡などにはやや時代が降る傾向も認められる。厨子内に相承次第が納められており、これに継がれた寄進状には貞和5年（1349）の年紀があることから、これが厨子の製作時期である可能性も考えられる。鎌倉時代以降、舍利厨子の作例は多いが、本品は光明真言を納める厨子として他に例がない遺品であり貴重である。

